

富士見市における公民館の現状と課題

島田梨花

本研究は、公民館が地域交流センターに移行している背景を明らかにすることを目的とし、坂戸市地域交流センター化基本計画に関する文献調査を行った。さらに、埼玉県富士見市における文献調査と水谷東公民館での参与観察とヒアリング調査を行い、現在の公民館の現状と課題と明らかにした。ヒアリング調査では現在水谷東公民館の専門員・社会教育主事である冨塚氏を対象者とした。

地域交流センターに移行している背景としては公民館が誕生した 1946 年から現在にかけての変化に伴い公民館では住民のニーズに応えることが難しくなったことが挙げられた。さらに行政が公民館の所管課を教育委員会から市長部局に変化させたいことも考えられた。

富士見市の公民館では全体の運営方法と各館ごとに重点施策があるが、近年では以前のように利用者を増やすことは難しく若者の利用者を増やすことが現状の課題であった。しかし、公民館は活動の場となっており、住民同士を繋げる役割を果たしていた。

課題としては富士見市内の公民館は同じ時期に建て替えをしなければならないためどのように公民館を維持していくかが課題であった。また、公民館には専門員の配置が規定されているが、専門員は減少しており 1 人も配置されていない公民館もあるため適切に配置することも挙げられた。